

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成26年7月3日(2014.7.3)

【公開番号】特開2013-2977(P2013-2977A)

【公開日】平成25年1月7日(2013.1.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-001

【出願番号】特願2011-134813(P2011-134813)

【国際特許分類】

G 04 G 99/00 (2010.01)

G 04 G 21/04 (2013.01)

H 04 B 1/08 (2006.01)

【F I】

G 04 G 1/00 3 1 7

G 04 G 1/00 3 0 7

H 04 B 1/08 K

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月20日(2014.5.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

前記課題を解決するために、本発明に係る感度調整装置は、

外装ケース内に収納され外部の機器との間で無線信号を送受信可能なアンテナの電波送受信感度を調整する感度調整装置であって、

前記アンテナを保持するモジュールと、

環状に形成され、前記モジュールの上方であって前記アンテナを覆う位置に配置されるとともに、その環状中心を中心として回転可能に設けられる内転リングと、

前記外装ケースの側面において内外を貫通して設けられるとともに、前記内転リングを回転させる回転操作部と、

を備え、

前記内転リングは、電波の透過を妨げる遮蔽部と電波を透過させる開放部とを備え、前記遮蔽部により覆われる前記アンテナの被遮蔽範囲を調整することを特徴としている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外装ケース内に収納され外部の機器との間で無線信号を送受信可能なアンテナの電波送受信感度を調整する感度調整装置であって、

前記アンテナを保持するモジュールと、

環状に形成され、前記モジュールの上方であって前記アンテナを覆う位置に配置されるとともに、その環状中心を中心として回転可能に設けられる内転リングと、

前記外装ケースの側面において内外を貫通して設けられるとともに、前記内転リングを回転させる回転操作部と、

を備え、

前記内転リングは、電波の透過を妨げる遮蔽部と電波を透過させる開放部とを備え、前記遮蔽部により覆われる前記アンテナの被遮蔽範囲を調整することを特徴とする感度調整装置。

【請求項 2】

前記遮蔽部は、前記アンテナを被覆する大きさで形成されており、
前記電波送受信感度は、前記内転リングの回転によって前記アンテナが前記遮蔽部に覆われた場合に、低くなることを特徴とする請求項 1 に記載の感度調整装置。

【請求項 3】

前記遮蔽部は、前記内転リングの裏面側に磁性体を貼付することにより構成されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の感度調整装置。

【請求項 4】

前記内転リングは、電波の透過を妨げる電波遮蔽材料で形成されるとともに、前記内転リングの周方向の一部に切り欠き部又は孔部を有し、

前記開放部は、前記内転リングにおける前記切り欠き部又は前記孔部であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の感度調整装置。

【請求項 5】

前記内転リングは、その周方向の一部に他の部分よりも厚く形成された肉厚部を有し、
前記遮蔽部は、前記内転リングにおける前記肉厚部であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の感度調整装置。

【請求項 6】

請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載の感度調整装置と、
前記感度調整装置により電波送受信感度を調整されるアンテナと、
前記アンテナ、前記モジュール及び前記内転リングを収納する外装ケースと、
を備えることを特徴とする腕時計。